

社会福祉施設における介護等体験受入の確認事項

▶介護等体験の目的とは・・・

- ・多様な人との交流を通じて、コミュニケーションの重要性や方法を学ぶ。
- ・多様な人間の存在とその価値観、考え方の違いを認識し、人間に対する理解を深める。
- ・対人援助の実際に触れて、人間関係形成の重要性、姿勢等を学ぶ。
- ・「個人の尊厳」・「人権」・「共生」・「社会連帯」について考える機会をもつ。

→介護等体験は教員に求められる資質を養うという目的で行われているものなので、「実習」ではなく「体験」であることを、受入施設をはじめとした全関係者が、十分認識してください。

学生は、介護や社会福祉の専門知識を修得していないことをご理解ください。

▶よりよい体験のために・・・

○受入にあたり

- ・学生を受け入れられる状況であるかを確認してください。
(利用者の状況、職員体制、担当者の設置、日程等)
- ・目的を達成するために、施設ではどのようなプログラムが組めるかを検討してください。
- ・ボランティアではなく、主に利用者との交流による体験および学習の場であることを確認してください。

○体験の内容について

- ・高齢者、障害者に対する介助の手助け（補助）。
- ・児童に対する学習指導やスポーツ、余暇活動等の交流。
- ・散歩の付き添いや交流等の体験。
- ・レクリエーションや運動会等の行動の手助け（補助）。
- ・福祉施設の業務の手助け（補助）等の体験。

→介護技術を取得する目的ではありません。

- ・異性介助（脱衣所での補助等も含む）は避けるようにしてください。
※担当者以外の職員の方にも、介護等体験の学生か、介護実習の学生か、わかるよう配慮をお願いします。
※「何もすることがなく見ているだけ」で終わらないようにしてください。

○体験中

- ・学生を育てるつもりで受入ましょう。
- ・何でも質問しやすい雰囲気づくりをしましょう。
- ・やるべきことの手順を具体的に丁寧に説明しましょう。
- ・やるべきことが理解できたようであれば、学生を見守るという姿勢を大事にしましょう。
- ・学生が困った時や適切な対応ができなかった時などはアドバイスするようにしましょう。
- ・1日の体験が終了したら必ず何か質問をしてもらうなど、簡単な課題を提示してみるのも効果的です。

○まとめ

- 学生の心情を理解し、受け止め支えるように指導することをこころがけてください。
- 1日1日を節目として、短くてもその日を振り返る時間を取り、翌日の活動内容を意識した反省会にしましょう。
- 学生が出会った出来事（例えば、利用者の姿に驚いた）について、どのように捉え、理解すればよいかをアドバイスしましょう。
- 学生が何を得たか、学生の希望等に応じた援助指導であったか、学生と利用者のふれあいの中で何が生まれたか等、施設、学生、利用者のそれぞれの視点から実施効果と改善点を整理するなど、施設側のふりかえりを行い、次年度の受入に活かしていただきたいと思います。

学生に社会人の常識、良識をはっきり伝え、施設の職場秩序をきちんと示しましょう。
何度注意しても、ルールやマナーが守れない場合は大学の担当者にご相談ください。